

### 受賞おめでとうございます

- 秋の叙勲** ◆瑞寶単光章  
吉川 勉 田口 英雄  
◆旭日単光章  
(故)岩井 久年
- 防犯関係** ◆防犯功労銅賞  
鈴木 康紀

### 大田区区政功労者賞

- ◆区議会議員  
鈴木 章浩
- ◆自治会・町会(会長・副会長)  
鈴木 英明 小林 利男  
田口 英雄 仲 喜久雄
- ◆投票管理者  
坂井 和夫
- ◆スポーツ振興審議会委員  
森 相子
- ◆民生委員・児童委員  
平林 祥子
- ◆多額寄付者  
(故)鈴木 猪の子  
(敬称略)

## 入新井第二小学校PTAバレーボール部 区長杯準優勝

この度、我が入新井第二小学校PTAバレーボール部が、昨年12月に行われた“大田区立小学校PTA連絡協議会第29回親善バレーボール大会”(選手たちの間では区長杯と呼ばれています)で、準優勝に輝きました!区立小学校のPTAチーム、49校中で第2位です!この試合までの2つの予選も、入新井第二小学校はそれぞれ準優勝しています!最初の予選は“入新井ブロック戦”です。ブロック内5校で試合をし、上位2校が次の予選の“大森地区戦”に進み、地区戦は、3つのブロックから勝ち上がってきた合計8校で行います。ここから上位3校が区長杯へ。区長杯では各地区から集まった総勢9校が全力あげて戦いました。全ての試合、どこのチームも、よく拾いよく上げよく打ち…感動の場面がたくさんありました。どの顔も皆、輝いていました!終わりにこの場をお借りして、応援やお手伝い等、携わって頂いた皆さんにお礼申し上げます。本当に、有難うございました。

<入新井第二小学校PTAバレーボール部代表>



戦い終わって「はい!チーズ」

## 編集後記

今回も前号に引き続き、大森第三中学校を取り上げました。地元の小中学校は、古くから地域の人々の心の拠り所となってきました。大森第三中学校を取材する中で、開校に際し、戦後間もない混乱の時期に、地域の人々が物心両面からの援助を行い、そのお陰で新校舎が完成し、何とか開校にこぎつけたことがわかりました。正に、地域力のな

せる業といえましょう。この地域力を生かし、学校、家庭そして地域住民が手を携えて子どもたちを見守り、育み育てていくことが更なる地域力向上の一助となると思います。これからも適宜、学校からの話題を取り上げますので皆様からのご意見、ご感想は是非お寄せ下さい。

<若生編集委員>

## 大田区子どもガーデンパーティー 4月20日(日)に決定

新井宿会場も「大田文化の森」と「入新井第二小学校グラウンド」を会場として三年目を迎えました。

当初の目的である地域に密着型の運営も、皆様のお力を得て、年を重ねる毎に「協力の絆」を深めています。また、ご協力いただく皆様方の豊富な知恵と惜しまぬ労力が、地域の宝である子どもたちに、笑顔がこぼれる楽しい一日をプレゼントしてくれることを願っております。

各コーナーの催し物については、ほぼ定着しつつあります。大ホール(大田文化の森)の利用も子どものみならず、地域の方々の発表の場の一つとして、活用させていただいております。

今年は、新井宿福祉園も園を開放し、一つのコーナーとして参加します。「この催しを通して、地域の皆様と同じ空間を共有し、お互いの理解を深めていきたい」と園一同、燃えています。

今年も、ガーデンパーティーを通して、新井宿地区の活性化と団結が深まることを願い、益々の発展を祈念します。当日のご協力をよろしくお願い申し上げます。

<青少年対策新井宿地区委員会>

発行 わがまち大田新井宿地区推進委員会  
編集 「わがまち新井宿」編集委員会

山王三・四丁目自治会	編集委員長	高 橋 紗英子
山王三丁目町会	副編集委員長	延 島 武 男
山王三丁目東自治会	編集委員	荒 木 秀 樹
山王三・四丁目自治会	編集委員	大 瀧 真理子
中央一丁目町会	編集委員	齋 藤 啓 子
中央四丁目町会	編集委員	若 生 一 順
新井宿五丁目町会	編集委員	谷 口 敏 子
新井宿六丁目町会	編集委員	河 原 神風代
新井宿七丁目町会	編集委員	石 田 小夜子

……共同編集……

監 修 新井宿地区自治会連合会  
事務局 大田区新井宿特別出張所  
大田区中央4-31-14 ☎3776-5391  
<http://www.city.ota.tokyo.jp/kita/index.html>



「あつ」 入二小一年 山口じゅんなんさんの作品

## “キッズな大森” —わがまちの子育てお悩み解決 処—

区内で3つ目の大田区子ども家庭支援センター(愛称キッズな)が、平成20年2月1日に大森地区に開設されました。「キッズな」は、子育て世代に親しんでもらえるように、子ども(キッズ)と絆の“な”を合わせたもので、愛称としてつけられました。大田区子ども家庭支援センターが、家庭や地域との絆になり、心の架け橋となるようにとの思いも込められているのです。キッズな大森を「知らなかった」また、「そこは保育所なの」という声に答えて、あらためてご紹介いたしましょう。0~3歳児の子育て奮闘中の保護者とお子さんが交流し、情報交換をしたり、悩みを打ち明け合ったり、もちろん、専門家による相談も予約制で受けられます。やさしいパステルカラーの空間で、心身を解き放してみませんか。散歩や買物の途中にちょっと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。\*利用方法は、別表の通りです。



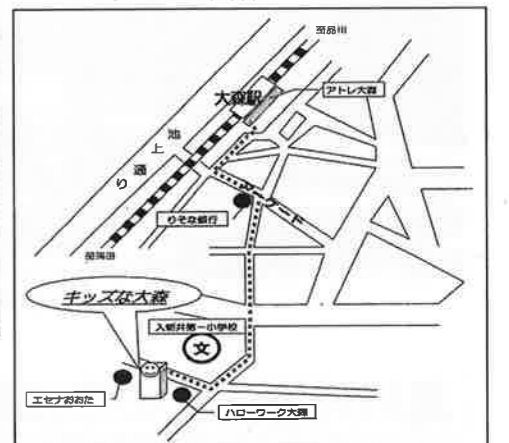
子育て応援コーナー(1階)



子育てひろば(2階)

開館時間 月~金 10:00~17:00

### キッズな大森<ご案内>



キッズな大森 (子ども家庭支援センター 本部)	[住所] 〒143-0016 大田区大森北4-16-5 [交通] JR大森駅東口下車徒歩8分 [閉館日] 日曜・祝日及び年末年始
■子どもと家庭の相談(2階) TEL5753-7830 FAX3763-0199 開館時間 月~金 9:00~18:00 土 10:00~18:00	◆来所相談もできます。お電話でご一報ください。 ◆臨床心理士への専門相談は予約制となっております。ご予約は03-5753-7830へ。 ◆児童虐待防止に関してのご相談やご連絡は03-5753-7830へ。
■子育てひろば(2階) 開館時間 月~金 10:00~17:00	ひろばは、0~3歳のお子さんと保護者の方の憩い・育ち合いの場です。親子で交流しながら過ごし、子育てに関する悩みを話し合ったり情報交換できる場です。絵本やおもちゃなども用意しています。
■子育て応援コーナー(1階) 開館時間 月~金 10:00~17:00	地域の子どもと家庭を支援する子育てグループや、ボランティア団体などと連携をはかり、地域の子育てネットワーク作りをしています。
■ファミリー・サポートおた(1階) TEL5753-1152 FAX3763-0191 開館時間 月~金 9:00~18:00 土 10:00~18:00	育児のお手伝いをしてほしい方(利用会員)と育児のお手伝いをしたい方(提供会員)を結ぶ、会員制の育児支援ネットワークです。活動の打合せなどのコーディネーター室もあります。

\*大田区子ども家庭支援センター・パンフレット(2008.2.1発行)から引用の上、編集いたしました。

### 開校当時の思い出

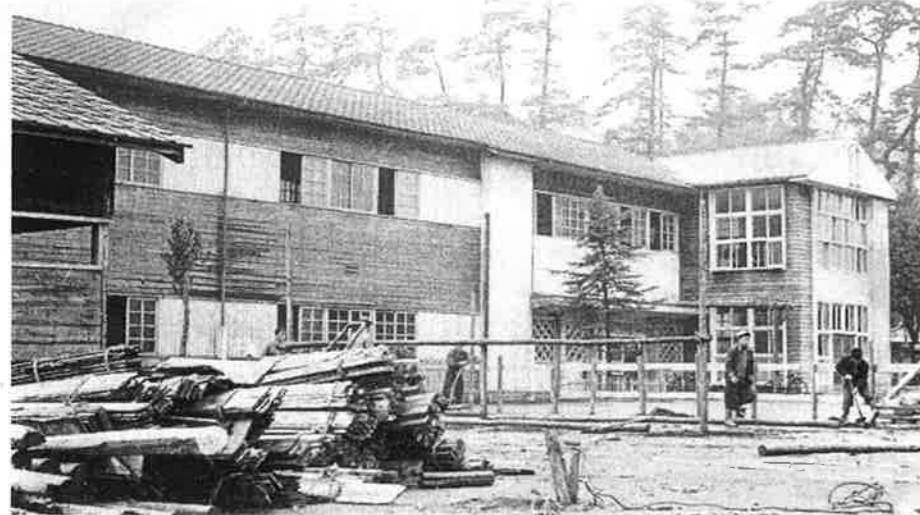
道潤会（同窓会）会長 荻原 武雄

昭和22年5月3日に入学はしたものの、校舎は入新井第二小学校を間借りしての授業。漸く2年後に独立の校舎が完成して9月1日に引越し。先生、生徒みんなで机、椅子、教材を持って「引越した！引越した！」と賑やかに臼田坂下通りを運んだ記憶があります。最初の本造校舎は、現在の体育館とプールのある側に建てられました。

校舎の周囲は、まだ田んぼや畑が広がり、体育の時間、生徒の行進は畑の中を進むことになってしまいました。

そこで暑い夏の日、先生、PTA、地域の方々、それに生徒も一緒になって、草取りをし、モッコを担いで土を運び、汗を流して運動場の整備をしました。

大森第三中学校の伝統のひとつでもある、地域の方々との協調は、開校当時のこんなエピソードから受け継がれたものです。



木造校舎時代の本校

### 湯川秀樹博士の来校講演

昭和33年11月

「学而不厭」校長室に掲げられているこの書は、湯川博士来校の折、記念に揮ごうしていただいたものだそうです。

「学びて厭わず」。常に探究心をもって、学ぶ姿勢を忘れずに。講演を熱心に拝聴する生徒の目の輝きに、博士は、この言葉が最もふさわしく思われたのでしょうか。

大森第三中学校の学究の銘文となっています。

湯川秀樹

# 学而不厭

### 大森第三中学校開校60周年 生立ちのエピソード

60年、日々新たに時は流れ、エピソードは生まれ、大森第三中学校の歴史が作られていきます。

今号は、第1期卒業生でもある荻原武雄同窓会会長に、編集委員がお目にかかり、そのエピソードの一端をうかがいました。



荻原会長

Q：同窓会の名が「道潤会」と付けられたのはなぜ？

A：開校当時の岡田先生が、「心に潤いをもって、道をまっすぐに歩め」ということで付けてくださいました。

### クラスター型鉄筋校舎

昭和35年5月 1号館完成

それは、初めてこの校舎に入ると、誰もが迷子になったという不思議な建物でした。十字形の外觀で、各教室がぶどうの房のようにかたまって配置されていて、城南地区では初めての学校建築様式でした。これは、生徒の教室移動の動線が短く、騒音も少なく、通風、採光がどの地点にも、満遍なくゆきわたり、生徒がより良い環境のもとで勉強できるように、考慮された設計だったそうです。

現在の校舎に改築されるまで、長い間、大森第三中学校の生徒に親しまれた校舎でした。



### 都内最多生徒数のマンモス中学校

昭和35年から始まるベビーブームと、入新井第四小学校の学区の一部変更が重なって、昭和35年度の新入生は888名、一学年16学級、P組まであったそうです。全生徒数は、その年約2,400名、都内の大規模校として週刊誌に紹介されました。創立当初、新入生211名で出発した大森第三中学校は、10年余りで都内最大のマンモス中学に成長しました。

なお、卒業生の総数は、21,000名余りとなっています。



当時の朝礼風景

その当時の卒業生の感想

### 「東京オリンピック当時の大森三中」

第17期卒業PTA顧問 市川 賢章

あの頃は、とにかく生徒がいるわ、いるわ。

今の渋谷が原宿の繁華街の真ん中で勉強していた気がいたします。特に印象深かったのは、学校全体が受験熱にうなされていたこと。なかでも最も参ったのは、廊下の壁に成績順位表を張り出されたことでしょうか。今、思い出すと、ある意味では目標が単純だった分、先生も生徒もやりやすかったかもしれませんが、いずれにしても、何をするにも、数のパワーが働きましたので、すごかったですね。確か、運動会も港区の芝公園をお借りして行われたように思います。結局、あの頃学んだものは何だったんだと考えると、数の持つ強大なエネルギーと、いろいろなタイプの違う人間との、出会いによるものの見方の多様化かな～という気がします。 — 後略 —

<50周年記念誌より>

### 鮮やかなオレンジ色のジャージ

覚えていませんか？ 10年程前まで、大森の町でよく見かけた「目に焼きつくような」オレンジ色のジャージ。大森第三中学校の体育着でした。思わず振り返ってしまいました。あの印象的なジャージは、平成10年までで、その後は薄青色の体育着になりました。制服は、平成2年まで詰襟学生服とセーラー服でしたが、その後は、紺のブレザーにグレーのスボン・スカートと、ぐっと活動的で中学生らしいスタイルに変わりました。